



阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター



2024 5月号



心理療法（6） 問題行動を繰り返す あるクライアントさんの臨床例

精神科の病院に勤務していた頃、閉鎖病棟では、患者さんが興奮したり、けんかをしたりすることがよく起こっていました。感情調節の難しい患者さんのカウンセリングの際、なぜ怒ったのかわからない状態で、そばにあるものを投げつけられたことがあります。私の勤務していた病院だけでなく、当時の病院では、そうした患者さんの対応にかなりのエネルギーを使っていたと思います。

そのような暴力的行動を繰り返していた患者さんが、カウンセリングを通して改善し、その後の人生まで変化した臨床例を記載したいと思います（すでに本人とご家族の承諾をいただいています）。

のちに、その方の親御さんから次のようなお言葉をいただきました。

「あらゆるところをめぐるって駄目だった子ども（以後、Aさん）が変わりました。私の子どもの問題行動で苦しみだして7年、診療所、保健所、病院、心理カウンセリング、家族会、警察、占い所、可能性のある所は全部回りましたが、悪くなるばかりでした。生きる力も夢も失っている時、一年に及ぶ先生のカウンセリングと家族療法で変わりました。」

Aさんは、ある精神科病院に入院していましたが、問題行動が原因で強制退院となります。他の病院を探しても、引き受けてくれる所がなく困っていたところ、当時私が勤務していた病院が承諾したのです。入院されてカウンセリングを実施する際、Aさんの状況を知っている看護師さんには心配されましたが、一対一で、毎週1回のペースでカウンセリングを実施しました。カウンセリングの時には特に問題となるような行動を起こすことはありませんでした。ところが、次の日に病棟へ行くと、Aさんは保護室に入っており、Aさんに聞くと、気に入らないことが起きて、問題行動を起こしたというのです。このようなことが続き、カウンセリングの際に話を聴くだけではこれ以上の進展がない、Aさん自身がもっと良くなる方法を考えなければならないと思いました。そこで、試みた方法がKJ法でした。

阪神カウンセリング・ラボ 梅田相談室

<https://www.hanshin-cl.com/>

〒530-0014 大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06 - 6147 - 2533

E-mail hanshin-cl@star.ocn.ne.jp

